

第 1 章 北広島町サイン整備実施計画の対象範囲

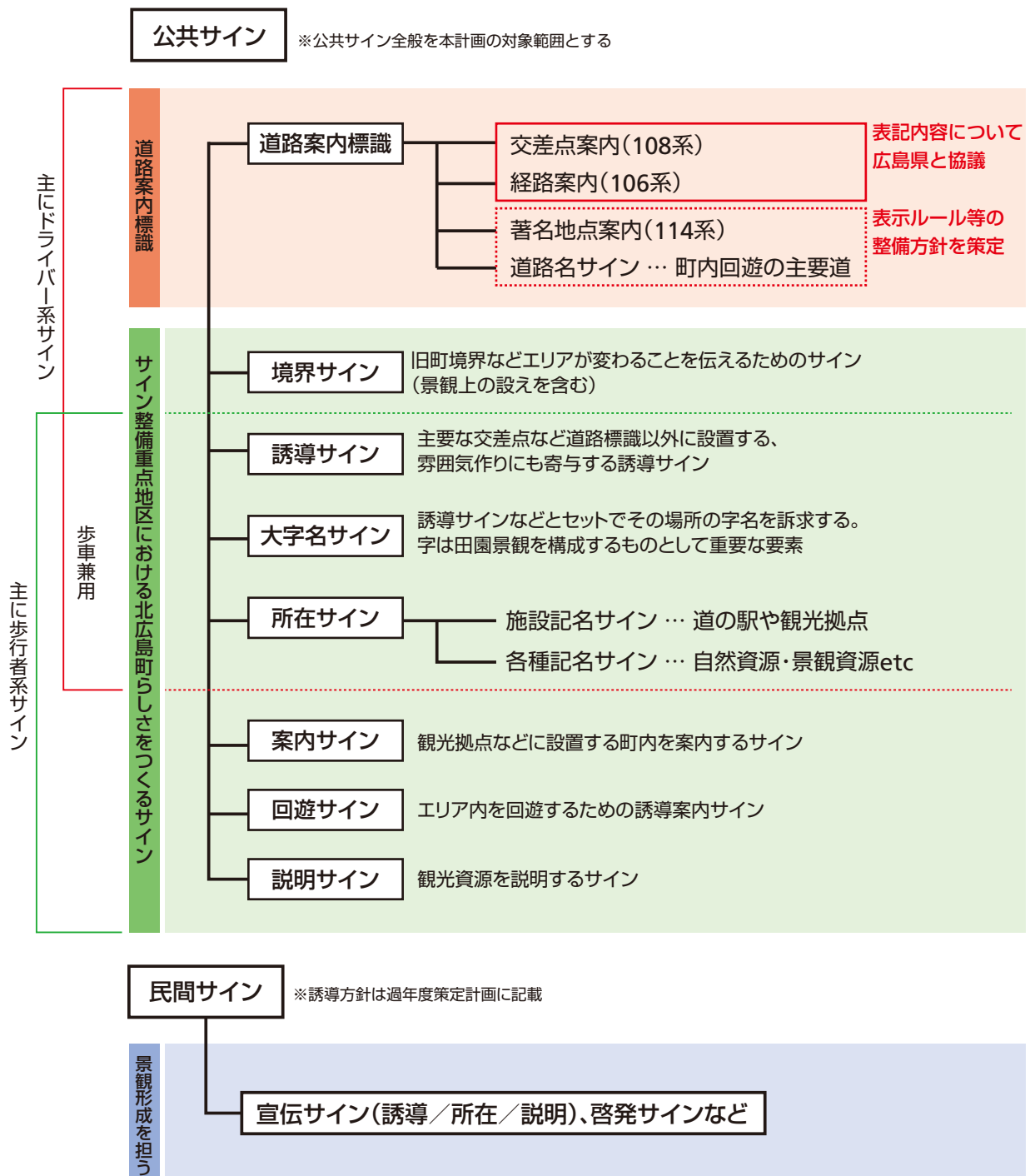
1. 北広島町のサインの全体像

1-1. 計画対象サイン

北広島町内の観光施設・景観資源へのアクセスは車での移動が基本であり、拠点間を歩いて回るとはまずありえない。そのため、町内回遊性を高め円滑な誘導を確立するためには、拠点間の案内誘導を基本から見直していくことが効果的と考えられる。(下図：ドライバー系サインの範囲を参照)

本計画では、過年度策定した北広島町サイン計画で定めたサイン分類に加え、道路標識令で定められたいわゆる道路案内標識に表記する誘導先等についても、広島県が進める「公共サイン再編整備事業」との調整を図ることとする。それとともに、町内で取り組まれている様々な地域づくりと連携しながら、サイン整備重点地区を定め、サインとともに景観を設え、「北広島町らしさ」を構築していくための新しいサインシステムを定義する。

■北広島町サイン整備実施計画 — サインシステム



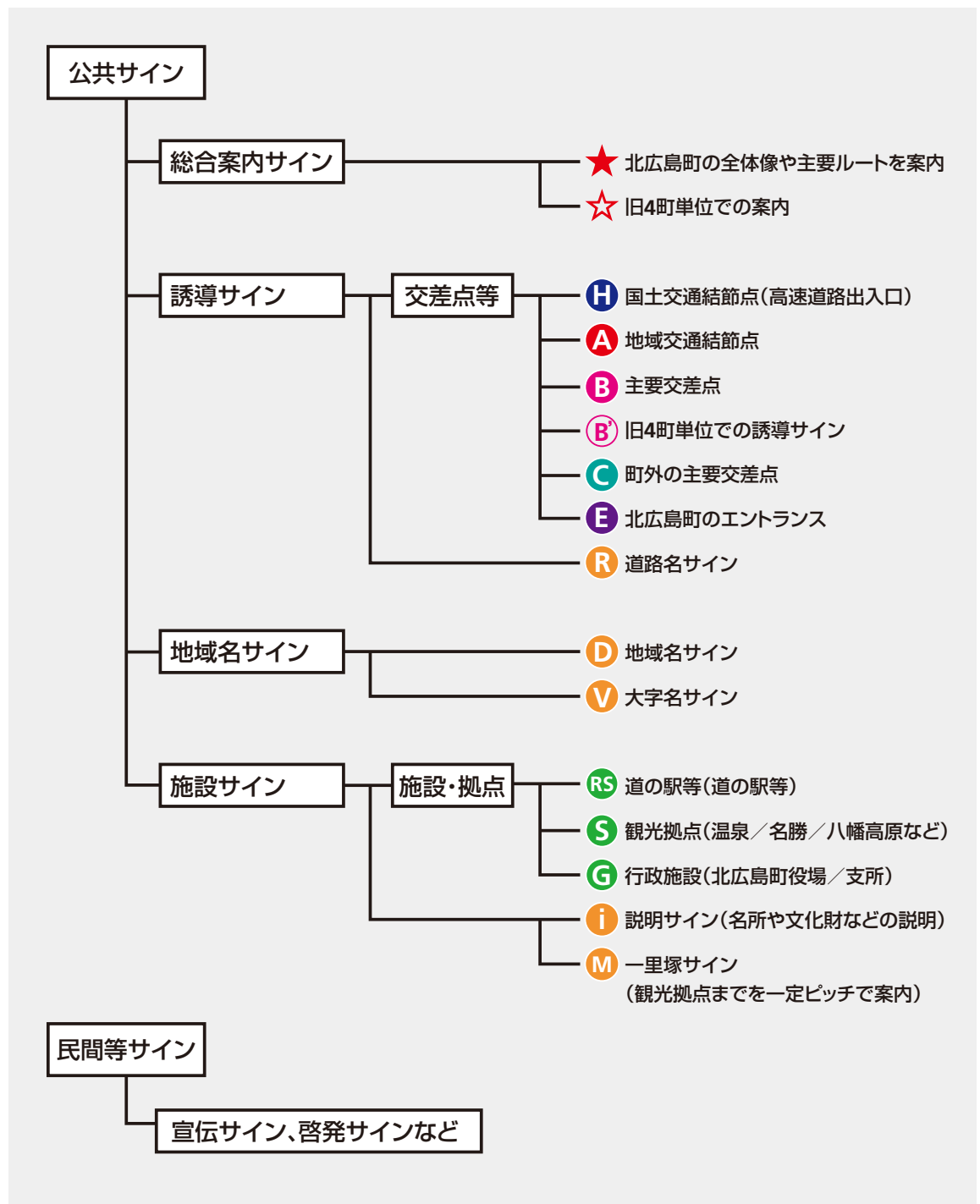
■北広島町サイン整備実施計画と過年度策定した北広島町サイン計画との相違点

過年度策定の計画では主要道・準主要道上にある主な交差点を設定し、サインの整備方針ならびにその場所の修景を考えるというのが基本であった。サイン整備実施計画では円滑な誘導の達成を基本として考えるとともに「観光」および「北広島町らしさ」をどうつくっていくかという視点を加える。

またそれぞれに記載される情報等の基準も定め、整備に向けた具体的な考え方を定めるものである。

参考)H24 年度策定 北広島町サイン計画におけるサインシステム

(過年度策定計画より抜粋)

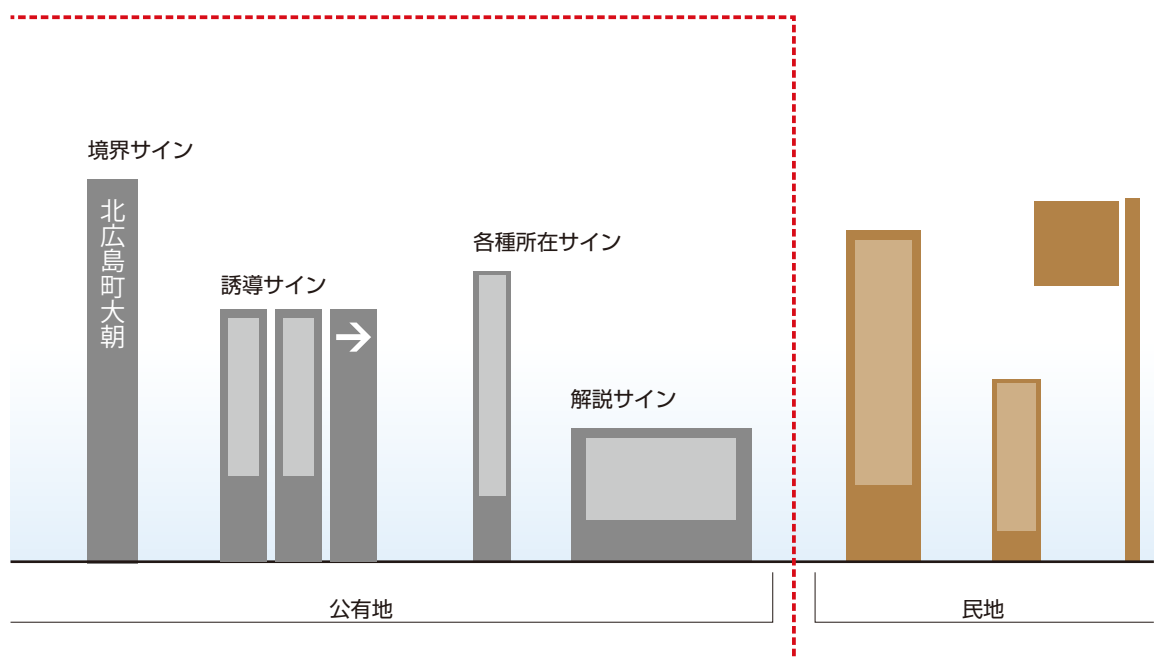
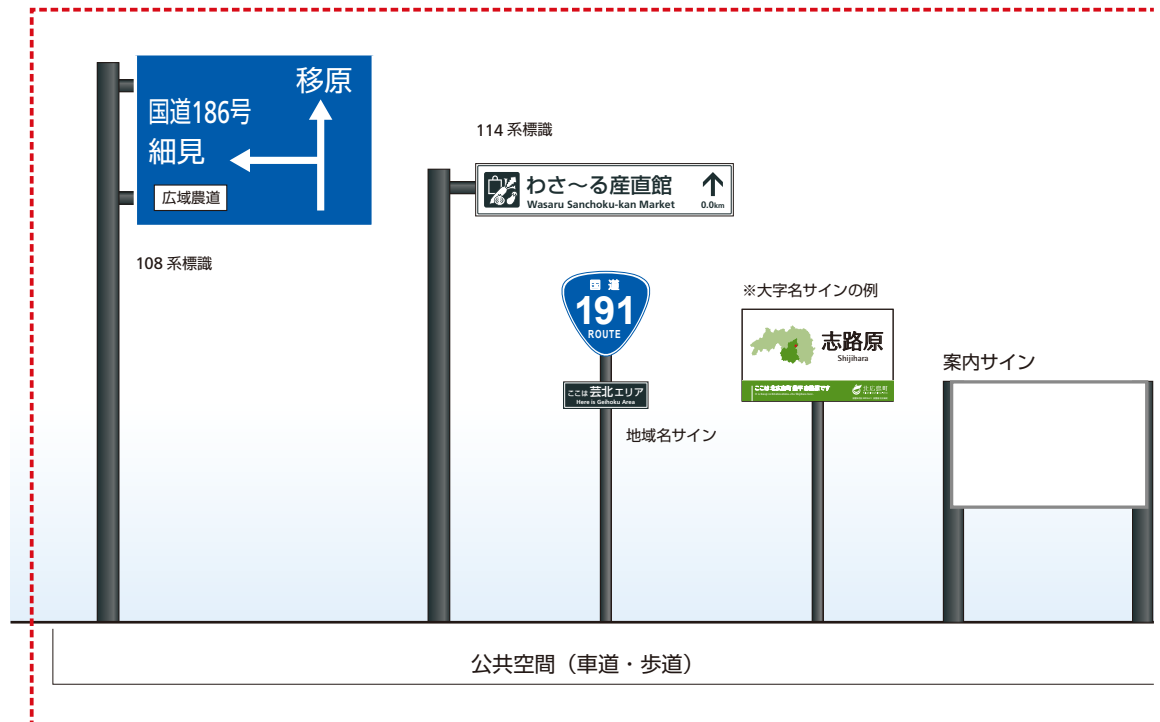


1-2. 計画の適用範囲

本計画においては、公共のサインについてその設置に関する原則を設定するものであるが、具体的にどこに設置されるどのようなサインであるか、以下の図に示す。

計画対象サインとなるのは以下の図の点線の範囲内に設置するサインであり、民間サイン以外のその全てを対象とする。民間サインについては過年度策定した北広島町サイン計画(H24)において誘導方針を定めているが、本計画の第2章を参考にしながら、町全体で**美しい田園風景とさとやま景観の創出**に向けて意識の共有を図っていくことが重要である。なお、公共施設内に施設管理者が設置するサインについては、本計画と連携し、連続性、統一性を図ることとする。

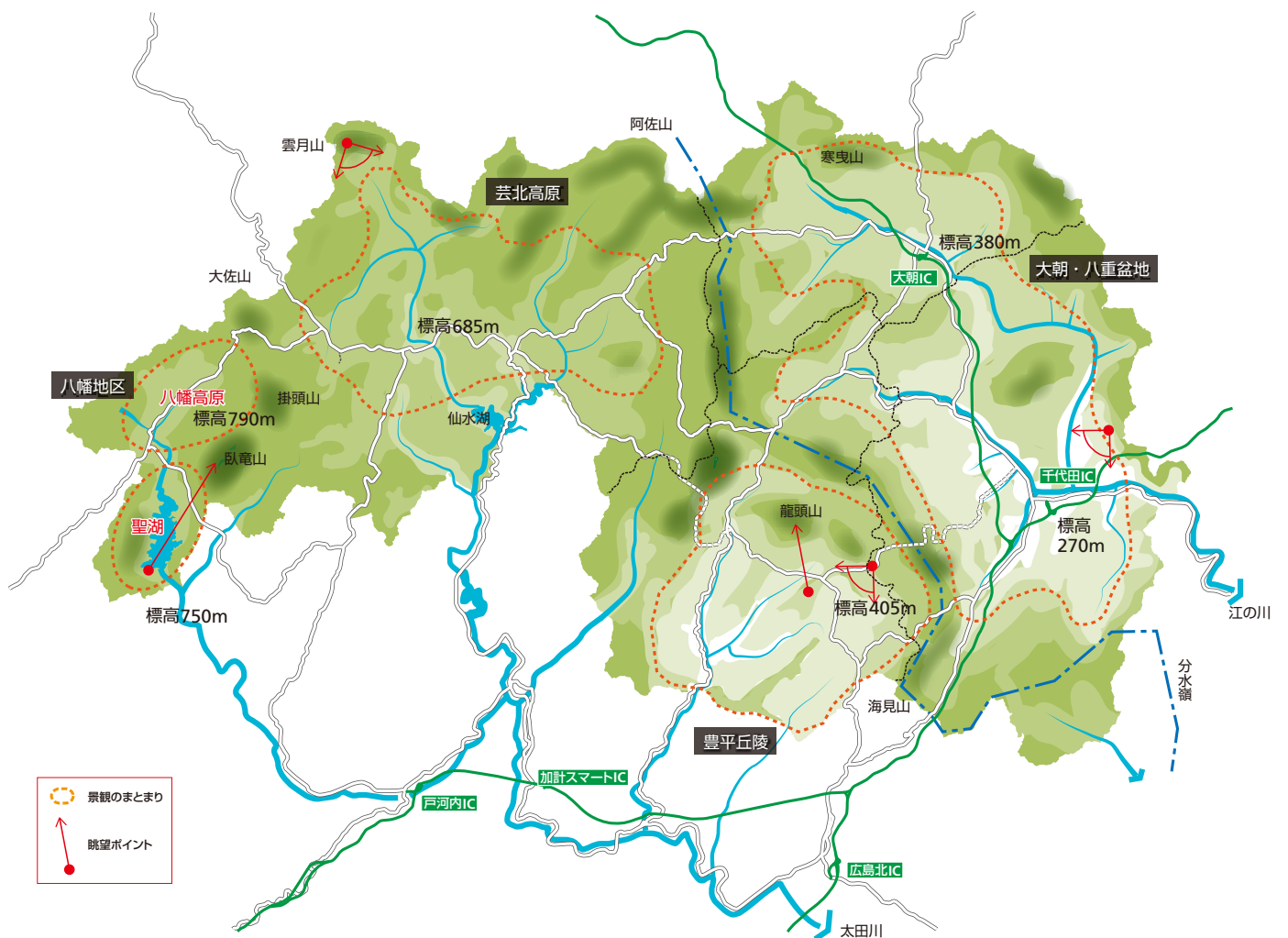
■計画の適用範囲のイメージ



2-1. 北広島町の構成と計画対象エリアについて

過年度策定計画の第Ⅰ部基本構想にある通り、旧４町のエリアごとの特性に加え、特に旧芸北町エリアには八幡高原や聖湖を有する魅力的なエリア「八幡地区」があり、観光などの面からも積極的に誘導していきたいエリアといえる。

■地域景観の現況
(過年度策定計画より抜粋)



2-2. 主要案内路線の定義 ―広島県広域計画との関係について―

主要な誘導経路(重点的にサインを整備していくルート)については過年度策定計画の第Ⅰ部基本構想にある通り、千代田・大朝・戸河内・広島北の4つの高速ICからのアクセスと、町内回遊性を考慮した3本のルートを基本とする。

H26 現在開通している広域農道は細見～溝口間だけである。また、広域農道の溝口側への経路においては道路標識などの整備がされていない現状もあり、新しく道路標識を設置するなどの積極的な整備をしていく必要がある。

なお、広島県が進める「公共サイン再編整備事業」が示す回遊ルートが町内に設定されており、今後、広島県がサイン整備を進める箇所ごとに協議をしていく必要がある。基本的に広島県が整備を進めるのは114系道路案内標識であることから、表示内容等については本計画で示すものに準拠していただくこととする。

- 広域農道開通前における町内回遊のための主要道：主要案内路線
- 広島県による公共サイン再編整備事業で設定されている回遊ルート

